

文芸

俳句

道問ひて指す方向は雪催

池田 逸子

片手間の出店賑はる梅まつり

伊藤 敬子

池の中足裏探る蛭夫妻

今関満喜子

約束の叶わぬままや梅の花

魚地 照子

凍つる夜の二灯洩るる蕎麦どころ

江森 悦子

足早を追ひかけきれず二月尽

川島 通則

春の富士スカイツリーと音くらべ

向後 寛

水鏡角組む葦の汀かな

越川せつ子

冬季五輪世界のハート鷺掴み

小松 藤男

彩雲やスカイツリーの春初

佐瀬 輝夫

春の月銀延べし川原かな

椎名万里子

あともどり出来ぬ人生春の川

鈴木とし子

馬拉ソンや走者の背に春の風

鈴木 利子

少年の足でさらえる蜷の道

玉虫 栗扇

日のまぶし釣りの醍醐味春の川
土屋美枝子

天空をせましと舞ふや春の鳶
土屋 義昭

戸を明けて雪にうもれし涅槃寺
戸村 静華

三寒は四温に続く田舎道
早川 勇

そのころの苦しきなつかしきころ
藤田 雅夫

短歌

丸丸とふとりし白菜切りたれば
ぱりつと音たて盛り上がりたり
加瀬 弘子

雪を呼ぶ低気圧去り三日目の
スーパ一の値札際立つ
押尾 輝子

月明かりの深まりゆくを眺めつつ
湖水一周散歩するなり
鈴木まさ子

馬拉ソンのゴール真近の沿道に
我を見つけて手を上げる夫
浅野 榮子

頭たれ乙女の羞じらひ思はせて
水仙の花山裾に咲く
芹川 初子

サニータス時くとボットに土を詰め
日向の縁に並べ置きたり
青木 秀子

冬の日の陽射しのやうなし夫なりき
凍へし心温めくれたり
八角 三枝

うねりつつ流るるが見ゆ隅田川
三百五十メートル真下にありて
西山満里子

草取りをすれどもすれども葉の芽吹き
吾より勝り緑増しゆく
椎名美枝子

妹の心もともに編みくれし
モヘアのマフラーつけて町ゆく
田崎 尚美

アマリスの蒼がひらく瞬間を
見ませと友が持ち来てくれぬ
斉藤つね子

.....
春めきて草取る後より小鳥来て
逃げず口ばし土の中へと
内藤 くに

愛犬と日ごと通いし散歩道
今は思い出ふみしめて行く
越川 義則

春の川流れる水は微温めども
目高小鮎の姿見えざる
伊藤 定男

生かされるいまを確かめ窓辺より
夜のしじまに寒月仰ぐ
高梨 キヨ

こうほう 博物館 73

絵馬

絵馬といえは、今では受

験シートンへ天神様に合格

祈願で捧げることが多く、

早春の風物詩としてテレビ

でも取り上げられる。この

ように現在では絵馬の奉納

は、神様や仏様への様々な

祈願のためにされているが、

いつからそうなったのであ

ろうか。

絵馬の起源は、平安時代

までさかのぼり、初めは馬

そのものを奉納していた。

その後、馬を奉納するのが
大変なことから、代わりに
板へ馬の絵を描いて奉納す
るようになった。江戸時代
になると馬の絵以外に、武
者絵や他の動物などが描か
れるようになり、さらに願
い事を書いたり、願掛けに
合わせた絵を描いて奉納す
るようになった。



▶小川台隆台寺不動堂に
保管されている絵馬

四月十二日から、町民ギ
ャラリーで町内所在の絵馬
を集めて絵馬展が開催され
ます。
(社会文化課 道澤 明)